

2026年 富田林市立図書館から
中学生のあなたへ

夏のおてがみ

勉強、クラブ、習い事、夏休みでも忙しい毎日。
ゆっくり本を読んで、新たな発見しませんか？

『万丸食堂、 奇跡のソフトクリーム』

山本 悦子／著
理論社



岩手県のはなさとまんまるにある万丸食堂には、十段重ねの大きなソフトクリームがあります。60 年以上経った今でも「奇跡のソフトクリーム」と呼ばれる人気メニューです。ビル開店前の作業員の話や、2011 年の地震から数日後の食堂の話、新型コロナの影響ですっと帰郷できずやっと戻って来た家族の話など、7つのお話が楽しめます。

『サグラダ・ファミリアの謎と アントニ・ガウディ』

鳥居 徳敏／監修
岩崎書店



完成までなぜ 140 年以上も？「サグラダ・ファミリア」は、未だ人々を惹きつける奇跡の建築。この本では、その唯一無二の建築家ガウディの生涯と作品に秘められた「謎」を豊富な写真で解き明かします。天才ガウディの壮大な世界観と建築に込められた深いメッセージを読み解くことで、その天才性にあなたもきっと心惹かれるはずです！

『名探偵と学ぶミステリ 推理小説アンソロジー＆ガイド』

杉江 松恋／編著
青崎 有吾・阿津川 辰海
楠谷 佑・斜線堂 有紀・辻 真先
福田 和代・水生 大海／著
早川書房



この本にはミステリ初心者にもやさしい入門知識や、ミステリがより面白くなるためのコラムが書かれています。また、現在活躍されている7人の作家による世界を代表する名探偵たちに捧げたオマージュ作品も収録されています。ミステリの入り口としてはもちろん、さらにお気に入りの作品を探すガイドとして活用してください。

『ひみつの湖』

カレン・イングリス／作
もりうち すみこ／訳
pon-marsh／絵
文研出版



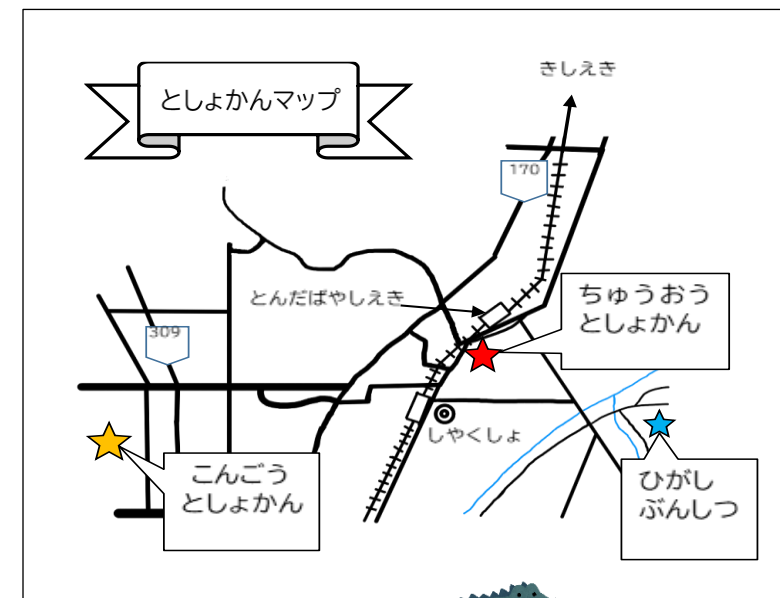
トムとステラは引っ越してきた家の庭で近所の犬を探すうち、大きな穴を見つける。穴の中の梯子をおりると、そこは湖が広がる百年前の世界だった。泥棒の疑いをかけられた少年や3人の少女たちと友人になった後、現代に戻る。二人は不思議な体験の証拠を探そうと近所のムーン夫人をたずねると、驚きの真実が明らかになる。

『伝えたい日本の郷土料理 煮る』

日本食生活協会／監修
ほるぷ出版



日本には、地域で食べ続けられている郷土料理というものがあります。この本では、煮て作られているものが集められています。奈良の飛鳥鍋のように珍しいものや、愛知のきしめんなど、食べたことのある料理もたくさんのおいてあります。旅行に出かけたときには、この本に出ている料理を思い出して一度食べてみてください。



『好きからはじまる！ 未来につながる 「世界の賞」』

①実験・発明・研究が好きなきみへ』
「世界の賞」取材班／著
汐文社

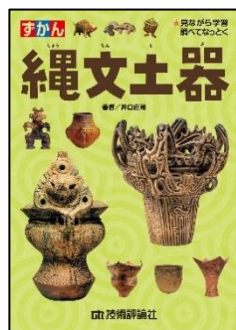


みなさんは「賞」と聞いて、何を思い浮かべますか。ノーベル賞は聞いたことがあるかも知れませんね。この本では、自分の経験から人のためになるものを発明したり、好きが高じて新発見をしたり、様々な分野で活躍する人たちを紹介しています。役立つようになるまで長い時間、研究・実験が続きます。



『ずかん 縄文土器』

井口 直司／著
技術評論社



縄文土器は、その名の通り縄文時代に作られました。縄文時代の人々は、土器をどのように使っていたのでしょうか。コゲがついていることから、料理に使っていた様子です。底がとがっている土器で、どうやって料理をしたのでしょうか？装身具が入ったまま発見された土器もあります。謎多き土器について探ってみましょう。

『ミッフィーとはじめてのアート』

ディック・ブルーナ／絵
小林 玲子／訳
川名 潤／日本語版デザイン
河出書房新社



ミッフィーといっしょに、シンプルでかわいいイラストを通して、色や形で遊びながらお絵かきの楽しさを学べます。美術館にある有名な絵画たちとディック・ブルーナさんの作品を比べながら表現の基本を中心に楽しめます。親子やお友だちとでアート体験を始めるのにぴったりです。わくわくアートタイムを楽しもう。

『探知犬ものがたり』

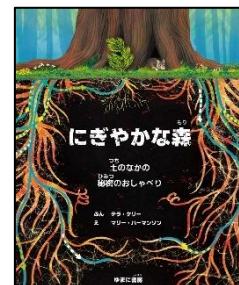
有島 希音・速渡 普土／著
文研出版



探知犬——そのすぐれた嗅覚をいかし、空港で麻薬の持ち込みを防いだり、行方不明者を捜索したりと、わたしたちの暮らしを支える頼もしい存在です。人のために働かされて、かわいそうだと思いますか？その仕事や訓練、犬たちの思いにせまります。この本を読めば、その見方が少し変わるかもしれません。

『にぎやかな森 土のなかの秘密のおしゃべり』

テラ・ケリー／著
マリー・ハーマンソン／イラスト
岩田 佳代子／訳
ゆまに書房



森にひっそり芽を出した小さなベイマツの赤ちゃんを中心に、森の生き物たちが関わり合って成長している様子を描いています。森には菌根菌ネットワークがあり、木の根とキノコなどの菌達のつながりで、お互いに情報交換し助け合っています。こういった森の自然環境を通して私達にもできる日々の大切なつながりを教えてくれます。

『インド象の背中に乗って』

小手鞠 るい／著
小学館



三葉の父が仕事でインドに行くことになった。一緒に行くか聞かれ、母と日本に残ると答えた三葉。だがその後すばらしいインド旅行記と出会う。書かれているのは、汚れたホテル、数時間も遅れる電車、人の亡骸が流されるガンジス川、美しい景色、たくましく生きる人々。日本と異なるインドの魅力に、三葉は夢中になっていく。

『世界をもっとうつくしく』

絵本作家バーバラ・クーニーがのこしたものの
アンジェラ・バーク・クンケル／文
ベッカ・スタッドランダー／絵
福本 友美子／訳
ほるぷ出版



子どものころから絵ときれいな色と光が好きだったバーバラは、大人になり本のさし絵をかいてみたいと考えました。出版社からの厳しい注文やきまりごとにしがってしごとをしていたバーバラは、ある日オンドリの美しさに目をうばわれ、自分のために絵をかき『チャントクリアときつね』という絵本を作りました。美しい色を愛した絵本作家、バーバラ・クーニーのおはなしです。



読み継がれてきた名作

『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ウィリアム・スタイグ／さく
せた ていじ／やく
評論社
1975 年



シルベスターは、父さん・母さんと住んでいます。小石あつめが大好きで、とくにかわった形・色をした小石がお気に入りでした。夏休みのある雨の日、シルベスターはビー玉みたいにまんまるな、赤い小石を見つけました。すてきな小石を見つめていると、体にあたる雨が冷たく感じます。「雨がやんでくれたらな」と思ったら…。

